



平成24年7月3日

河川やプール等での事故を防ごう ～水による事故、水辺の事故から尊い命を守る～

梅雨が明け、夏の暑さがやってくると、河川やプールなどに出かける機会が多くなりますが、おぼれたり、転んだりして救急搬送される事故も、この時期に多くなります。東京消防庁管内では、平成19年から平成23年までの6月から9月に河川やプール等で発生した「おぼれる」事故により、91人が救急搬送されています。

河川やプール等で「おぼれる」事故は、生命を脅かす事故となる可能性が高いことから、当庁では、注意を呼びかけています。

- 1 「おぼれる」事故では、6月から9月までに91人が救急搬送され、特に、7月が33人、8月が26人と多くなっています。
- 2 「おぼれる」事故の発生場所では、河川が全体の57.1%、プールが34.1%となっています。
- 3 「おぼれる」事故では、63.7%が入院の必要がある中等症以上と診断されています。
- 4 30歳代では、全体の40%が、飲酒が「おぼれ」の一因と推測される事故により救急搬送されています。
- 5 プールでは、滑って「ころぶ」事故により320人が、「ぶつかる」事故により95人が救急搬送されています。
- 6 「おぼれる」や「ころぶ」事故以外に、河川、河川敷では、蛇にかまれたり、蜂に刺されたり、釣り針が刺さったりする事故が発生しています。

東京消防庁では、今後も同様の救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民の安全確保に努めてまいります。

問合せ先

東京消防庁 (代) 電話 3212 - 2111
防災安全課防災安全係 内線 4206
広報課報道係 内線 2345～2349



1 「おぼれる」事故

(1) 救急搬送人員の推移

東京消防庁管内¹⁾では、平成19年から平成23年²⁾までの6月から9月に発生した「おぼれる」事故³⁾により、年間平均約18人、合計91人が救急搬送されています（図1）。

- 1) 東京都のうち東久留米市、稲城市、島しょ地区を除く地域（東久留米市は平成22年4月1日より東京消防庁管内）
- 2) 平成23年中は暫定値です。
- 3) 事故発症時動作為「溺水・入水」のうち、「自損」、「浴槽での溺水」を除きます。

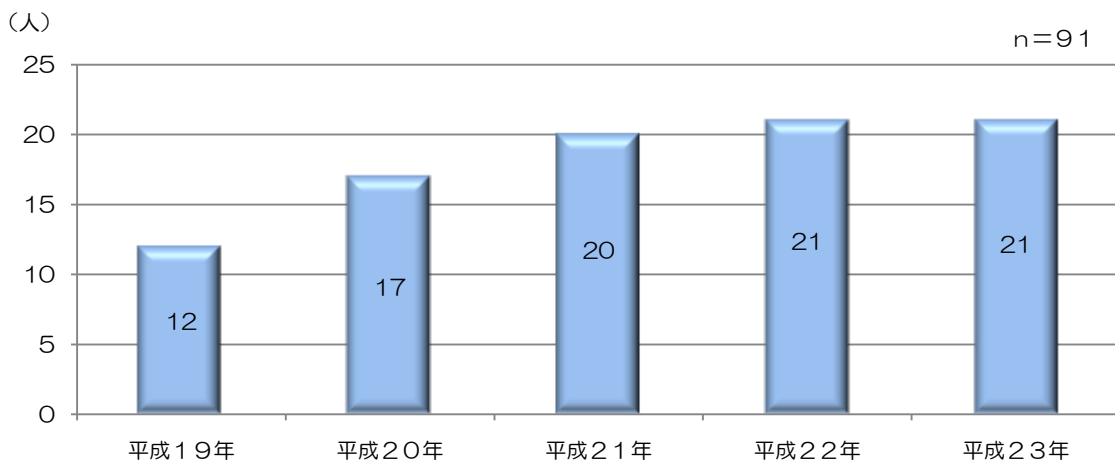


図1 「おぼれる」事故による年別救急搬送人員（6月～9月）

(2) 月別救急搬送人員（平成19年から平成23年まで）

月別にみると、7月と8月に搬送人員が多くなっています（図2）。

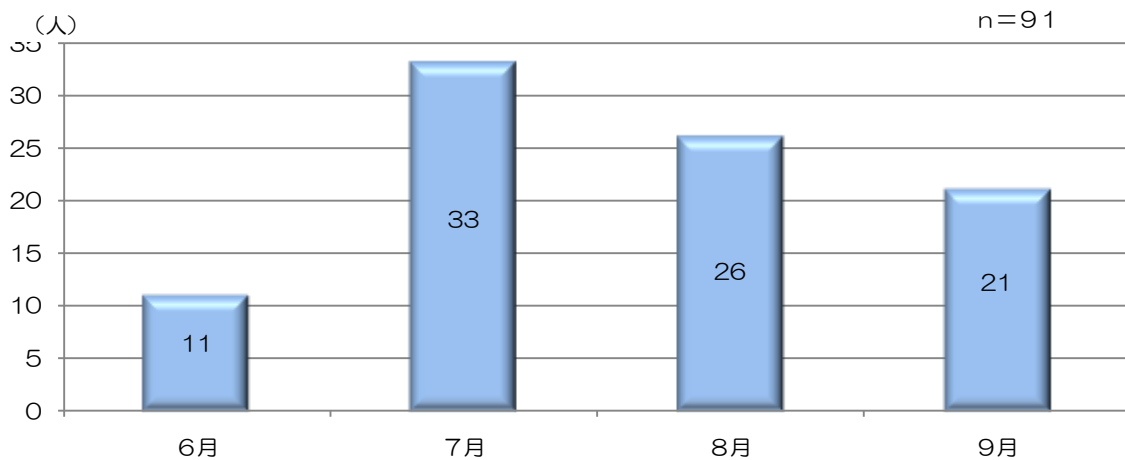


図2 月別救急搬送人員

(3) 事故発生場所別の救急搬送人員

「おぼれる」事故が発生している場所では、河川が57.1%、プールが34.1%と高い割合を占めています（図3）。

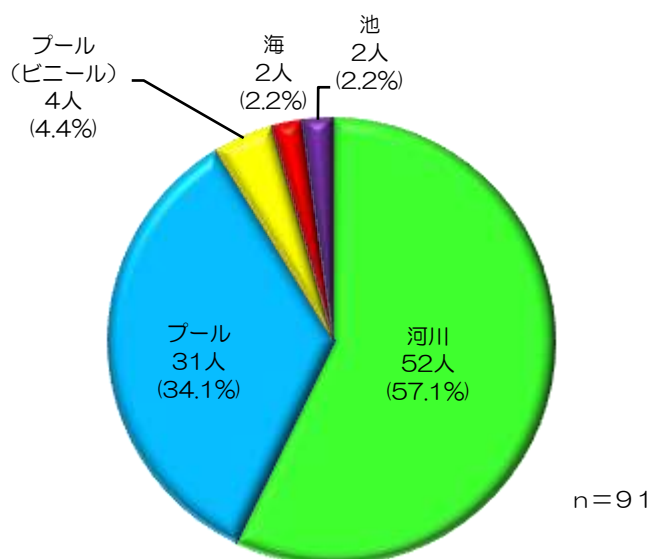


図3 事故発生場所別の救急搬送人員

(4) 年齢区分別による発生場所の割合

9歳以下ではプール、河川のほかに、ビニールプール、池でも事故が発生しています。

10歳代から50歳代では河川や海での事故が50%を超えていますが、60歳代ではプールでの事故が最も多く、66.7%を占めています（図4）。

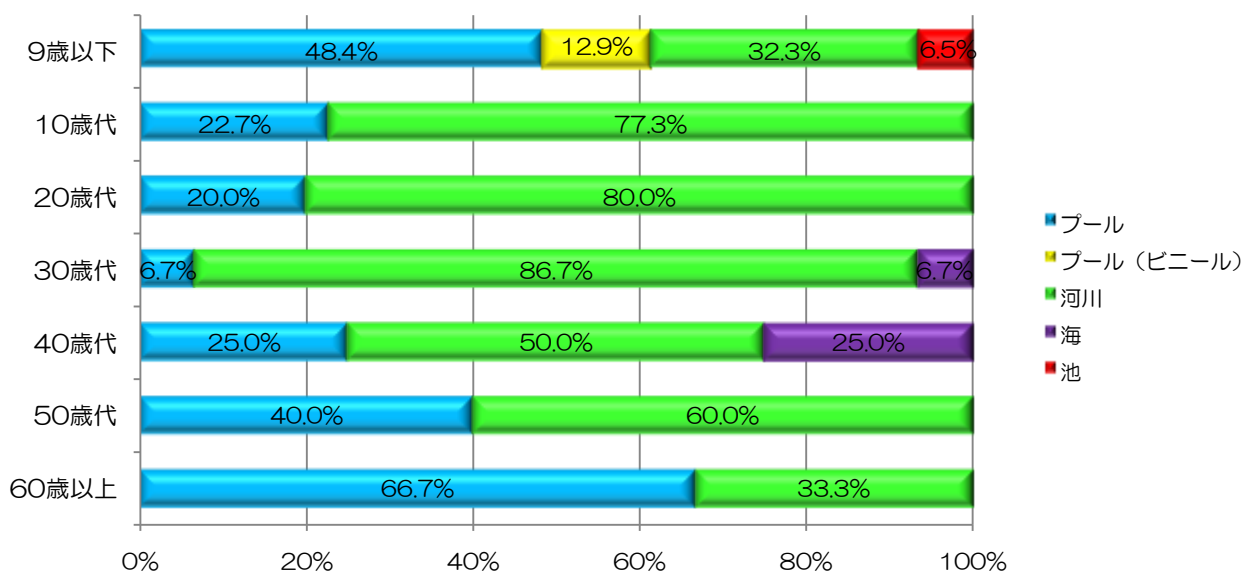


図4 年齢区分別による発生場所の割合

(5) 年齢区別による搬送人員と初診時程度の割合

年齢区別に見ると、9歳以下がもっとも多く、次に10歳代となっています（表1）。

初診時程度では、入院の必要があるとされる中等症以上の割合が全ての年齢区分で40%以上となっており、全体では63.7%となっています（表1、図5）。

バーベキューで飲酒した後に水に入った等、飲酒が「おぼれ」の一因と推測される事故により、9人が救急搬送されています。30歳代では飲酒していた割合が全体の40%となっています。飲酒後の入水は、思わぬ事故につながるがあるのでやめましょう。

表1 年齢区別搬送人員

年齢区分	軽症	中等症	重症	重篤	死亡	不搬送	小計	中等症以上の割合
9歳以下	7	10	5	6	—	3	31	67.7%
10歳代	8	6	3	2	2	1	22	59.1%
20歳代	3	2(1)	—	—	—	—	5(1)*	40.0%
30歳代	5(1)	1	2(1)	5(4)	2	—	15(6)	66.7%
40歳代	1	—	1	1	—	1	4	50.0%
50歳代	—	1	—	4(1)	—	—	5(1)	100.0%
60歳以上	4	1	2(1)	2	—	—	9(1)	55.6%
総計	28(1)	21(1)	13(2)	20(5)	4	5	91(9)	63.7%

※ () 内の数値は、飲酒が関係しているもの

軽症：軽易で入院の必要がないもの

中等症：生命の危険はないが、入院の必要があるもの

重症：生命の危険があるもの

重篤：生命の危険が切迫しているもの

死亡：初診時に死亡が確認されたもの

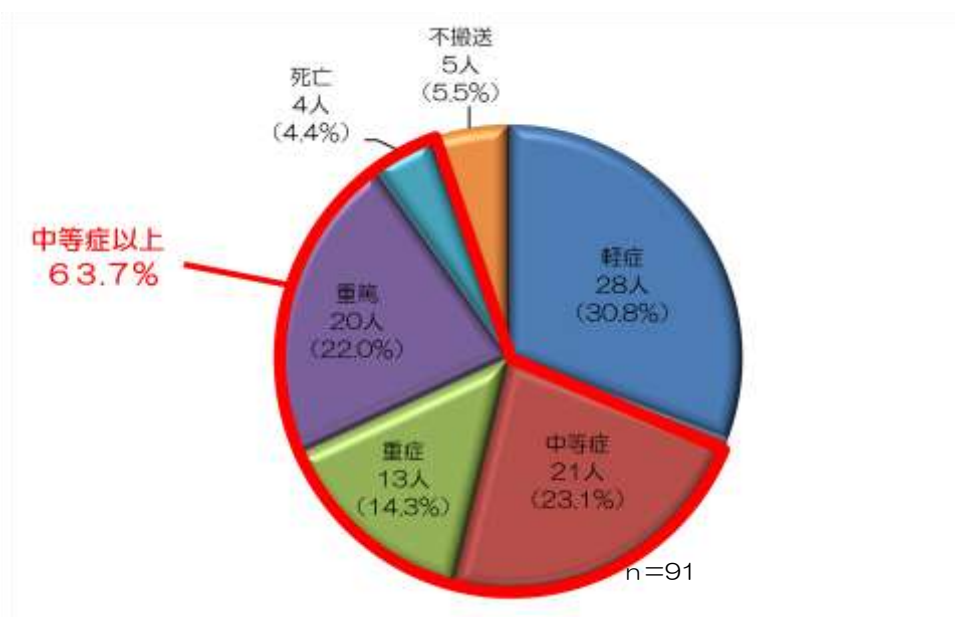


図5 初診時程度別割合

2 「おぼれる」事故以外のプールでの事故

プールでは「おぼれる」事故だけではなく、プールサイドで滑って転んだり、ぶつかったりして救急搬送される事故が多く発生しています。

(1) 「ころぶ」事故

ア 月別程度別救急搬送人員

平成19年から平成23年までに、プールに係る「ころぶ」事故により320人が救急搬送されています（図6）。プールサイドやプールの階段等が水に濡れて滑りやすくなっているため、注意が必要です。

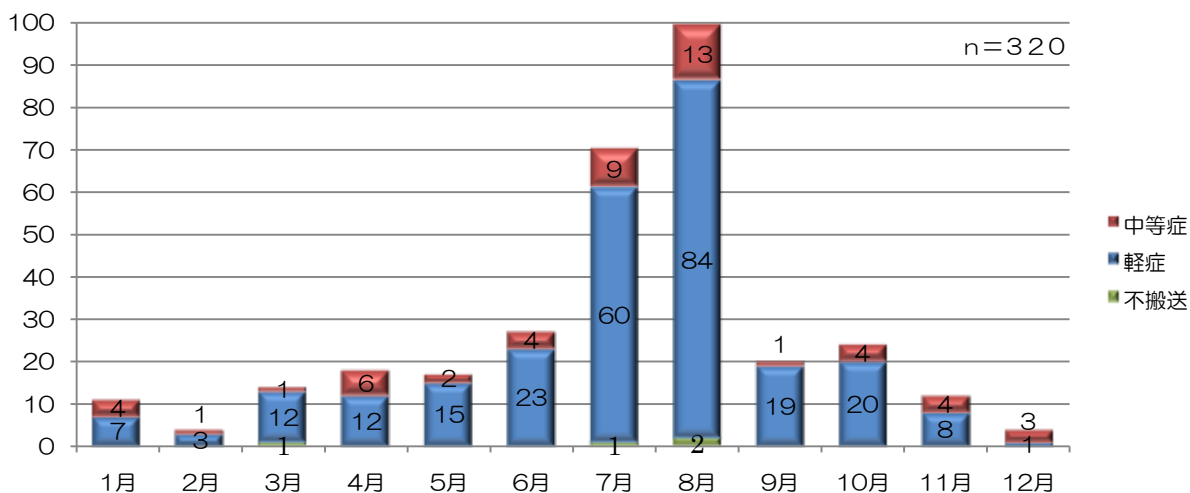


図6 月別程度別救急搬送人員（ころぶ）

イ 年齢区分別程度別救急搬送人員

年齢区分別では9歳以下が141人と最も多く、次いで60歳以上が89人となっています。60歳以上では入院が必要となる中等症と診断される事故が36.0%となっています。（図7）

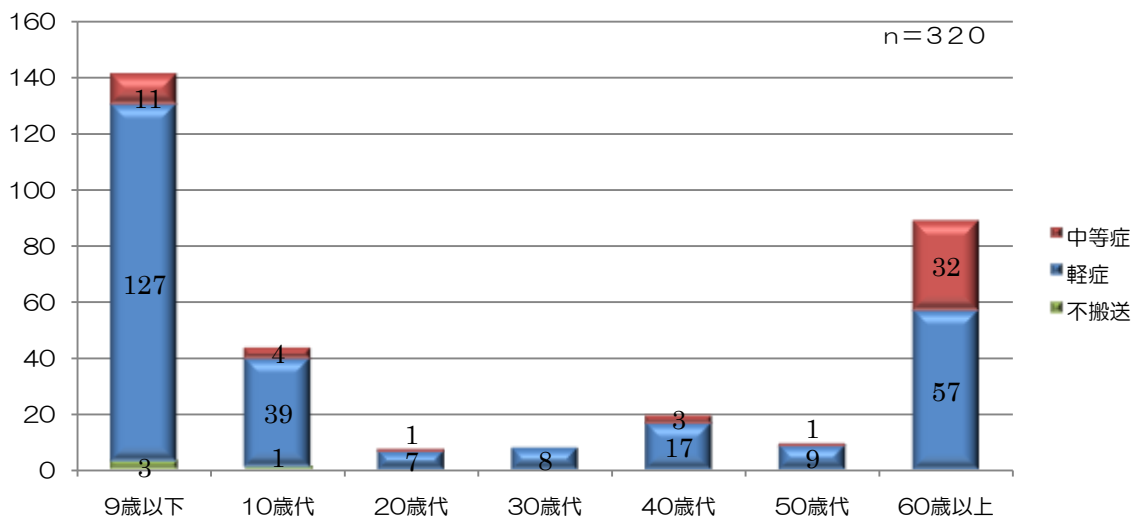


図7 年齢区分別程度別救急搬送人員（ころぶ）

(2) 「ぶつかる」事故

年齢区分別程度別救急搬送人員

プールでは「ぶつかる」事故により95人が救急搬送されています。9歳以下が29人、10歳代が30人となっており、全体の6割を超えています。プールに飛び込んで遊ぶことも多い年代ですので、周囲にも注意を払う必要があります。

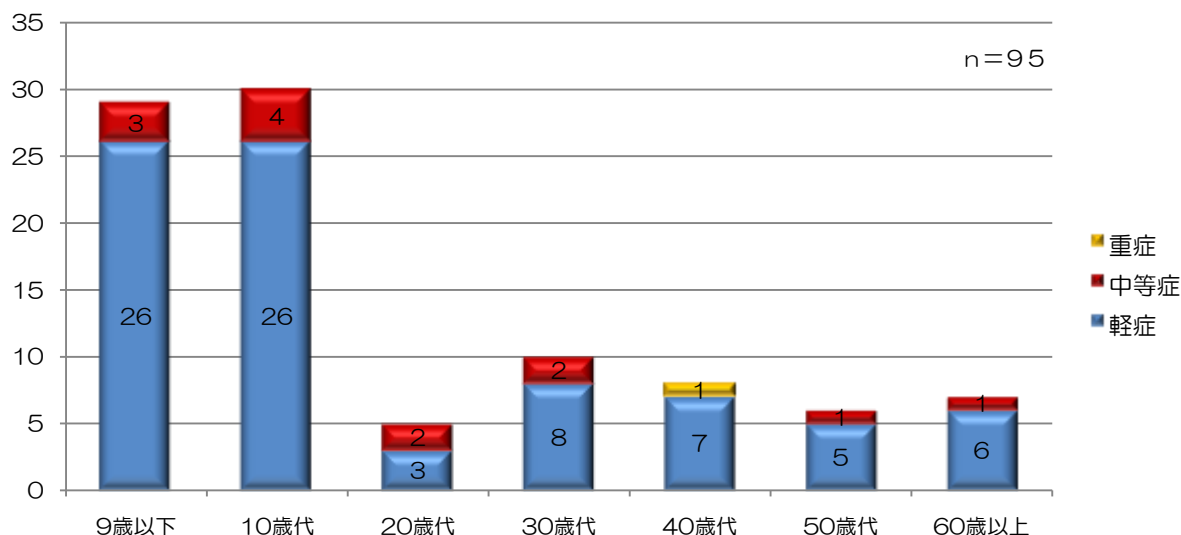


図8 年齢区分別程度別救急搬送人員 (ぶつかる)

3 事故事例

	概 要
1	マンションのベランダで、5歳と3歳の兄弟が家庭用のビニールプールで遊んでいた際、母親が1～2分間目を離した際に、3歳の男児がプールに沈んでしまった。(3歳男児 中等症)
2	川遊びをしていた2歳の女児の姿が見えなくなったことに母親が気づいて探したところ、川で流されているのを発見した。(2歳女児 重篤)
3	38歳の男性が、河川敷で友人たちとバーベキューをし、飲酒後に川に入って遊泳していたところ、水没した。(38歳男性 重篤)
4	保育園の園庭で簡易プールで遊んでいたところ、園庭上に敷いたビニールで滑って転倒し前額部を打撲した。(4歳男児 中等症)
5	プールサイドで足を滑らせて転倒し、顔面を受傷した。(63歳男性 中等症)
6	プールの授業中に潜水し泳いでいたところ、飛び込みをした他の人とぶつかって首を受傷した。(14歳男性 中等症)
7	プールで泳いでいたところ、対面から泳いできた他の利用客とぶつかり、肩を受傷した。(76歳女性 中等症)

4 河川・河川敷では他にもこんな事故が！！

- 5歳男児が川で遊んでいて、蛇を捕まえようとして腕をかまれた。(軽症)
- 12歳男児が河川敷で遊んでいて、蜂に刺された。(中等症)
- 14歳男児が友人と河川敷で釣りをしていて、友人が投げたルアーの針が頭頂部に刺さった。(軽症)

5 事故を防ぐために

- (1) 小さい子どもと一緒に水遊びをする際は、子どもから目を離さず、保護者や大人が必ず付き添って遊びましょう。
- (2) 子どもが泳いでいる時は、プール等に監視員がいる場合でも油断することなく、目を離さないようにしましょう。
- (3) 飲酒後や体調不良時には遊泳しないようにしましょう。飲酒後に遊泳しようとしている人がいたら、周りにいる人は遊泳をやめさせましょう。
- (4) 海や河川では気象状況に注意を払い、荒天時や天候不良が予測される場合は、遊泳や川岸等でのレジャーは中止しましょう。
- (5) 海辺や河川で遊ぶ際は、ライフジャケットを着用するなど、事故の未然防止に努めましょう。
- (6) プールの周りは滑りやすくなっているので、走ったりせず、注意して歩きましょう。